

会 議 録

1 会議名

令和5年度 第1回 上越市博物館協議会

2 議題

令和4年度事業実施状況（公開）

- ・上越市立歴史博物館
- ・上越市立水族博物館

令和6年度事業計画（案）（非公開）

3 開催日時

令和5年9月18日（月・祝）午後1時30分から

4 開催場所

上越市立歴史博物館 講堂ほか

5 傍聴人の数

なし

6 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

(1) 委員

武石勉、山下優子、小原清文、永井克行、保坂清美、浅倉有子、五百川裕、渡邊憲一、坂詰つぐみ、渡辺裕子

(2) 事務局

- ・早川教育長
- ・文化行政課 新保課長
- ・歴史博物館 宮崎館長、花岡副館長、荒川主任
- ・教育総務課 瀧本課長、小酒井副課長、力久係長、長谷川主事
- ・水族博物館 和田館長、野々山副館長、鈴木リーダー

7 委員の選出と所属部会の決定

- ・委員長：浅倉有子
- ・副委員長：五百川裕
- ・歴史博物館部会：武石勉、小原清文、保坂清美、浅倉有子、渡辺裕子
- ・水族博物館部会：山下優子、永井克行、五百川裕、渡邊憲一、坂詰つぐみ

8 発言の内容

令和4年度事業実施状況（公開）

(1) 上越市立歴史博物館

【歴史博物館資料 1～9 ページに基づき説明】

(武石副部長) 令和4年度事業実施状況のなかの逸品展示「どうする康政 榊原資料展」の目標入館者数について資料では抜けているようだが。

(花岡統括学芸員) 逸品展示「どうする康政」は令和5年度の実施事業であるが、観桜会の前倒しにともない6日間だけ令和4年度に開催したもので、6日間で3,479人の入館者があった。令和5年度事業の目標入館者数は改めて報告する。

(浅倉部会長) 3月中だけの数字としてはすごく入っているのでは。フレキシブルに会期を変更しながら事業を行うのは大変だと思うがすごいこと。

(宮崎館長) 逸品展示については、これまで年度替わりの4月1日から開催する事業だったが、観桜会の会期が桜の開花にあわせて3月中からはじまるようになったことから、会計年度は翌年度だが観桜会にあわせた会期の設定となっている。そのため資料の書き方が少し複雑になっている。

(小原委員) 展覧会事業に関してはどのくらいのスパンで計画されているのか。新潟県立歴史博物館では5年先までの計画は決まっている。

(花岡統括学芸員) 市の財政計画上5～8年くらいまでは計画をしておき、展覧会の内容が入れ替わることもあるが、3年先まではほぼ確定して準備を進めている。また年度のはじめに行う逸品展示については、新しく収集した資料や新たに発見された知見などを市民に紹介する、または突発的な内容についても対応できる事業として設定している。

(宮崎館長) 逸品展示「どうする康政」はまさにその趣旨に沿ったもの。

(浅倉部会長) 資料の購入について、どのような資料を購入したのか聞きたい。あわせて寄贈された資料についても具体的に教えてほしい。

(花岡統括学芸員) 資料購入については、資料と参考文献を含めて予算は30万。購入した資料については、宝田石油や日本石油に関する写真帳など今年度の企画展に関連するものが多い。寄贈資料については、民俗資料が多いが、歴史資料としては上越市文化財に指定されている「銅造薬師如来像懸仏」や榊原家ゆかりとして伝わる「銅製象形香炉」のほか、『上越市史』でも掲載されているもので、松平光長の家臣で越後騒動後に浪人となり帰農した家の関係資料などを寄贈いただいた。

(浅倉部会長) 多種多様な資料であり、興味深い。ぜひお披露目の機会を作ってほしい。続けてとなるが、人権・同和問題研修会についてももう少し具体的に教えてほしい。

(花岡統括学芸員) 常設展示室を主に活用しながら学校の先生方に博物館での展示内容を知ってもらい学校の授業に活かしてもらえるような研修会を開催している。

(宮崎館長) 学校関係者は新採用または上越地域に異動してきた方々を対象にしている。そのほか、県立高田商業高等学校が近年人権・同和教育問題研修の指定校になった関係で同校教職員向けの研修も個別に行った。また当館には、教育委員会で社会教育指導員や白山会館委員などを勤めた会計年度職員がおり、その職員を中心に研修資料作成や研修会の対応をしている。

(浅倉部会長) 私自身も参加したいと思う内容で、学校の関係者以外にも研修を受講したいという希望者がいると思う。あわせて、岡沢拠点収蔵施設の公開について、参加者からどんな感想が出たのか教えてほしい。

(花岡統括学芸員) この施設は中郷区の岡沢にあるが、なかなか一般の方々が施設内を見る機会が少なかった。広く施設の存在を知ってもらう機会になればと帰省する人が多いゴールデンウィークやお盆の時期に公開している。参加者は地元の中郷区の方々、特に岡沢の方々が多く、卒業した小学校を懐かしんだり、現在の施設についても好意的な感想を持たれていた。同時に、民俗学を専門とする研究者も公開日にあわせて調査に来られている。公開日とは別に民俗資料の調査の依頼も増えている。

(浅倉部会長) 公開日の対応についてはどうか。施設には膨大な資料があって一人で見て回るには躊躇するかも知れない。公開日以外でも見学など可能か。

(花岡統括学芸員) 公開日には博物館職員が常駐し、施設案内や参加者の対応などを行っている。公開日以外でも団体などでの見学申し込みがあれば対応している。

(渡辺委員) 施設の公開日を増やす計画はあるか。岡沢にある沢山の資料は市外から観光などで来られた方々にとっても関心が高く、観光資源としても上越の魅力を伝えるものだと思う。

(花岡統括学芸員) 施設の公開については、費用対効果を考えながら今後も計画をしていく。

(浅倉部会長) 民俗資料の整理作業の現状はどうか。

(花岡統括学芸員) 民俗資料は毎年 200～400 件の寄贈があり、整理作業も継続して行っている。

(宮崎館長) 資料を死蔵するのではなく活用できる形で整理作業を進めている。

(保坂委員) そもそもなぜ中郷区岡沢に収蔵施設があるのか。

(花岡統括学芸員) この施設はもともと岡沢小学校の校舎だが、建設から10年ほどで廃校になった比較的新しい建物だった。ちょうど上越市に合併となった旧町村の民俗資料が廃棄されるかどうかの瀬戸際だった時期で、上越地域の民俗資料を一括で管理できる場所を探していたところ、廃校となった岡沢小学校が空いていることを受けて、地元の方々の理解を得ながら、民俗資料の収蔵施設として使わせていただいている。

(保坂委員) 多くの方々からこの施設のことを知っていただくことが大事で、その意味で活用の形が重要になると思う。

(武石副部長) 令和4年度の入館者数について、無料ゾーン利用者数が全体の8割ほどになるが、この数字を有料入館者へと導いたり、館で発行する印刷物の購入へと結びつけるためのポイントなどあれば教えてほしい。

(花岡統括学芸員) 以前の総合博物館時代は、喫茶コーナーを除いて施設は全て有料ゾーンであった。歴史博物館のリニューアルに際して、高田城址公園で休憩できる場所、観光で来られた方にとってのゲートウェイとしての機能を整備することを意識した。1階ラウンジや屋上など施設の多くの部分を無料ゾーンとして割いているが、その上で、館内にポスターやチラシを掲示したり、1階にデジタルサイネージを設置するなどして、2階の展示室への誘導に努めている。無料ゾーンと有料ゾーンの割合について、特に有料ゾーンが少ないと感じているわけではなく、リニューアルの目的に見合ったとおり高田城址公園の利用や観光などで博物館に立ち寄っていただいている数値であると考えている。

(宮崎館長) 仕組みとしては5館共通券(博物館・高田城三重櫓・小林古径記念美術館・日本スキー発祥記念館・坂口記念館)や2館共通券(博物館・高田城三重櫓)がある。数年前までは博物館と高田城三重櫓の展示内容は似通っていたが、現在では歴史資料の展示は博物館で中心に行うなど展示の方向性を変えるなど、2館共通券や5館共通券を購入してもらうための仕組みを作っている。特に観桜会の会期中は三重櫓での共通券販売は多い。

(浅倉部会長) 博物館の立地も重要である。

(2) 上越市立水族博物館

【水族博物館資料 1～11 ページに基づき説明】

(山下委員) 令和4年度において、たいへん多くの取組を実施しているが、成果と課題につ

いての総括があるとよい。特別展や企画展、調査研究など、水族博物館としての取組を続け、実績を積んできている点は評価でき、実績を情報として発信するなど、水族博物館の魅力向上につなげていてもらいたい。水族博物館の展示については、入館者が受け身のものが多いと感じているが、マンスリー水槽で実施していた拡大鏡を使用して観察する展示は、入館者にとって能動的なものであり、今後も同様の展示に取り組んでいただきたい。多くの地域連携事業を実施しているが、地域連携の在り方を整理するとともに、事業への参画を通して地域の考えや意見を聞き取り、水族博物館の運営にいかしてもらいたい。

(野々山副館長) 成果や課題については、資料中において説明しているが、よりわかりやすい説明となるよう工夫する。能動的な展示として、拡大鏡を使用した展示が例として示されたが、展示資料の観察に拡大鏡が必要であることから設置したものであり、拡大鏡の使用を能動的な展示として意識していなかった。新しい視点として捉え、入館者にとって能動的となる展示の実施を検討していきたい。

(和田館長) 令和4年度において、地域連携については、多くイベント等へ参加や参画するという方針のもと実施してきた。その中で、在り方を考える必要性も感じており、より良い形で地域貢献できるよう模索していきたい。

(力久係長) たいへん多くの事業を実施していることもあり、成果と課題については、総括的な説明も行うようにしたい。

(永井委員) 様々な取組を実施しているが、水族博物館内外での工作、実験、体験活動などのワークショップにも取り組んでみてはどうか。水族博物館として展示を見せることも大切であるが、参加者自ら手を動かす取組も興味深いものである。簡単ではないが、ワークショップが地域を巻き込んだ取組として発展する可能性もある。最近、イワシが海岸に打ち上げられる事例が発生しているが、水族博物館として、どのように捉えているか。

(野々山副館長) 明確な原因は分かっていない。海水温の変化が影響しているのではないかとも言われているが、同様の事例は従来から発生しているものであると認識している。SNSなどの普及によって情報が拡散されるために、人々の目に触れる機会が増加しているとも考えられる。

全体会：両部会での議論の報告

(1) 歴史博物館部会

(武石副部長) 部長は浅倉委員、副部長は私(武石委員)に決定した。令和4年度事業実施状況について、いくつか質問が出されたが主な内容を紹介する。展覧会の準備計画の Spann について質問があり、市の財政計画にあわせて8年くらいの Spann で計画をしているが3年先の展覧会までほぼ確定する形で準備計画をしていると回答があった。資料購入費については、資料だけでなく刊行物の購入もあわせて30万の購入費があると回答があり、委員からは購入費が少ないという意見、恵まれているという意見のどちらも出た。岡沢拠点収蔵施設の公開についての質問については、地元の方に広く施設を知ってもらう機会として設定しているとの回答があり、令和4年度は162人の参加者があった。入館者の8割ほどになる無料ゾーン利用者を有料ゾーンに誘導するためのポイントについて質問があり、無料ゾーンについては休憩場や上越市全体の観光のゲートウェイとして位置付けており、無料ゾーンの屋上からは高田城三重櫓や高田城址そのものを見てもらえていること、館内にチラシ・ポスターを掲示し、1階にデジタルサイネージを設置するなど2階の展示室への誘導にも努めていると回答があった。

令和6年度事業計画(案)については、次のような意見があった。企画展「探検!むかしのくらし」について、小学生向けのデジタルコンテンツの作成について意見が出た。委員からは現物を見ることの大切さや、現物とデジタルコンテンツをあわせることで学習効果が高まるとの意見が出された。無料ゾーンのカフェについて、博物館の入館者数を増やすためにもカフェのクオリティーを上げる必要があるとの意見が出された。

(2) 水族博物館部会

(渡邊副部長) 部長は五百川委員、副部長は私(渡邊委員)に決定した。令和4年度事業実施状況については、次のような意見があった。コロナ禍において厳しい状況が続く中、入館者数が回復していることは、様々な取組が功を奏していると考えられ、評価されるべきである。4年度において、様々な取組を実施しているが、その成果や課題について総括があるとよい。調査研究の実績が周知されていないため、魅力として発信すべきである。マンスリー水槽で実施していた拡大鏡を使用して観察する展示のように、入館者が直接的に関わることが可能な能動的な展示があるとよい。地域連携について、多くのイベント等に参加、企画しているが、取組の効果を向上させるために、水族博物館の関わりについて

整理が必要である。

令和6年度事業計画（案）については、次のような意見があった。入館者数が回復傾向を示す中、上越市民の入館が伸び悩んでいるのではないかと感じている。開館から5年が経過する中、施設内外の空間づくりを工夫し、市民が足を運びたくなるような施設を目指してもらいたい。

(3) 全体会での質疑

(山下委員) 採算性の面から、入館料の値上げなどは、必要ないのか。

(新保課長) 歴史博物館については、市立の博物館という位置づけから、入館料収入で施設の維持管理費や人件費などを賄うことは難しいという認識から施設を運営している。昨今のエネルギー価格の高騰の状況もあるが、すぐに入館料を値上げするという状況には至っていないと考えている。

(瀧本課長) 水族博物館については、指定管理制度を導入しており、入館料収入によって必要な経費を賄う計画となっている。しかしながら、他の施設と同様にコロナ禍の影響を受け、計画どおりの運営が困難になったことから、経費の補填を行っている。また、エネルギー価格の高騰に伴う補填も行っている。

(力久係長) 先程、水族博物館の入館者数の話があったが、採算についても関係することから、補足させていただきたい。令和4年度における水族博物館の入館者数33.6万人について、開館当初の半数程度との話があったが、水族館のような施設は年々、入館者が減少するのが通例である。特に開館当初は、開館効果によって入館者数が多くなるため、その後の減少率は大きい。計画上、開館5年目に当たる令和4年度の入館者数は約36万人であり、その点からすると入館者数の回復は進んでいると考えられる。また、上越市民の入館者数が伸び悩んでいるのではないかとのご意見があったが、社会経済活動が正常化に向かい、県外からの入館者が回復するのに伴い、上越市民の占める割合が減少したものであることをご理解いただきたい。

9 問合せ先

上越市立歴史博物館 TEL : 025-524-3120

E-mail : museum@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。